



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局 鎌倉市

ミゲル A. カリエド駐日スペイン大使当協会名誉会長就任



前号でお伝えしたように、ハビエル・コンデ氏が退任された駐日スペイン大使には、新たにミゲル A. カリエド (Miguel A. Carriedo) 大使が着任されました。

新大使は1944年マドリッド生まれの61歳。スペイン国外務省文化局長、在パリ・ユネスコ・スペイン政府代表部大使、在ワシントン・米州機構スペイン政府代表大使・オブザーバー、スペイン国外務省大臣官房長・局長、スペイン国外務省国際協力及びイベロアメリカ担当事務次官、在南アフリカ・スペイン国大使、在レバノン・スペイン国大使などを経てこの度、在日本・スペイン国大使に就任されました。

これを期に当協会では、新大使に協会名誉会長のご就任をお願いしましたところ、6月16日の日付をもって、ご承諾いただきました。

2006年度定時総会開催

2006年度の定時総会は5月21日(日)午後2時30分から、「かながわ県民サポートセンター」711号室で33名が出席し開催されました。

先ず、下山会長より、昨年創立15周年記念の事業を実行した当協会は、5年後の20周年を次の目標として、協会の組織と活動のさらなる充実を図ると共に、会員相互の親睦を一層深めて行けるよう会員の皆様のご協力をお願いする旨の挨拶がありました。併せて前年度の理事のご努力に対し謝意を表されました。

引き続き、廣瀬事務局長より議題と進行についての説明の後、規約に則り会長が議長に指名され、「2006年度定時総会議案書」に基づき審議に入りました。

「2005年度事業報告について」は飯塚副会長より説明、「2005年度一般会計決算報告」は齋藤副会長より説明



▲総会後の楽しい懇親会



▲出席者を前に挨拶する会長

があり、井口監事より「監査報告」が行われました。続いて、「2006年度事業計画(案)について」飯塚副会長、「2006年度一般会計収支予算(案)について」齋藤副会長より説明が行われました。以上の説明・報告の後、各議案につき衆議を諮ったところ、全員の賛同を得て、総ての議案とも可決されました。

「新役員について」の議案については、廣瀬事務局長より、役員選考委員会による選考の経緯と、新役員が理事会での承認を得たことが報告されました。

AIYES通信44号で紹介されました新役員については、山崎新事務局長より一人一人紹介が行われました。総会は午後3時30分終了し、引き続き同じ会議室において懇親会を行いました。

大使館庭園に横浜緋桜贈呈記念プレート設置

昨年（2005年）2月、スペイン大使館の庭園に、当協会創立15周年記念と、スペインとの末長い友好を願って植樹した「横浜緋桜」に、植樹記念のプレートが設置されました。

コンデ大使の離任、新大使の着任など大使館側のご都合があり、当協会会員が参加してのプレート設置イベントは行えませんでした。

しかしながら大使館側のご好意で、設置の作業すべてを行ない、写真を送ってきて下さいました。ここにそのご好意に対し、お礼を申し上げます。



設置された植樹記念のプレート▶

***** スペイン・サロンへのお誘い *****

●9月のスペイン・サロン：「音楽サロン」開催のためお休みです。（詳細はP3参照）

●10月のスペイン・サロン

当協会のスペイン語講師だったジュアン先生は、スペインに帰国されカセレス県のビジャミエル村（人口わずか802人）に住んでいらっしゃいますが、10月に一時日本に戻って来られます。これを機に、「ジュアンご夫妻を囲んで」スペインの田舎暮らしについてお話していただく予定です。日時、場所は未定。詳細については、当協会ホーム・ページ等で確認をお願いします。

●11月のスペイン・サロン

今年は、コロンブス没後500周年になります。そこでコロンブスの晩年や、コロンブスがスペインに残した軌跡、当時のスペインの情勢などについて神奈川大学の青木康征教授に講演をお願いしています。

日 時：11月18日（土）13：30～15：30

場 所：横浜市市民活動支援センター4階研修室Ⅰ 横浜市中区桜木町1-1-56

参加費：会員 1,000円 一般 1,200円

●12月のスペイン・サロン：12月は例年通りスペイン・サロンはお休みです。

話題満載スペイン・サロン

●7月のスペイン・サロン

日 時：7月13日（木）13：00～15：00

会 場：県民サポートセンター7階710号室

7月2日まで東京都美術館で「プラド美術館展」が開かれていて、多くの方が観に行きました。スペイン絵画といえば、カトリックの宗教画をはずして考えることは出来ません。今回のスペイン・サロンのメインでは、高柳治子さんに「プラド美術館展」の中から「エル・エスコリアルスの無原罪の御宿り」（ムリーリョ）、「貝殻の子供たち」（ムリーリョ）、「聖トマスの懐疑」（ストメル）の3点の宗教画を選び、話をさせて頂きました。スペインのマリア信仰の基となるマリアの無原罪のいわれ、また、貝殻をもつ幼いイエスと洗礼者聖ヨハネの関係、聖トマスがイエスの復活を手で傷に触って確かめるまで信じられなかった話など、宗教画の背景のわかり易い解説で、スペイン絵画のより一層の理解に役立つ話でした。

後半はザビエル生誕500年にちなみ、ジェットスキーで来浜したアルバロ・デ・マリチャラル氏（公爵）に会った人たちから、その時の様子など写真を回しながらの話があり、つづいて映画の話では、ペドロ・ア

ルモドバル監督の最新作“Volver”のカンヌ映画祭での受賞、スペインのベストセラー小説「アラトリステ」（アルトゥーロ・ペレス・レベルテ作）の映画化（9月スペインで封切り）、また、今話題の「ダ・ヴィンチ・コード」に登場のオプス・デイについてなどの話ができました。

最近のスペインニュースでは、ETAの停戦の背景をスペイン語教室「新聞雑誌講読クラス」で読んで得た情報や、カタルーニャなどの独立への動きの話が飛び出しました。バルセロナでは闘牛がなくなる？とのうわさとか……。

とにかく多彩な話が飛び交い、久しぶりに参加者それぞれが話す機会のある会で、なかなか楽しくて良かったとの評判でした。17名の参加者の中には日本語勉強中のスペイン人ナチョさんの姿もありました。今後のスペイン・サロンにも、積極的にスペイン人の友達を連れてきて輪に入って頂きたいし、新しい会員の方々にも気軽に参加して頂けるサロンにしていきたいと考えます。（寺原瑛子）



▲あれこれと話題の尽きない7月のサロン

***** 文化講座からのお知らせ *****

♪♪ 「スペイン音楽サロン」へのお誘い♪♪

ーザビエル生誕500年記念コンサートのお知らせー

ザビエル生誕500年記念コンサートの第一夜「ザビエルの時代の音楽」は6月22日聖パウロ教会（東京目黒区）で行われました。昨年11月スペイン・サロンで講演していただいた今谷和徳氏の解説をはさみ、小野田（岩崎）良子さん（会員）のパイプオルガン、石井（正木）三栄子さん（会員）の歌で中世の雰囲気たっぷりの音楽を厳かな教会の空間の中で堪能しました。聖パウロ教会のパイプオルガンは、サラマンカ大聖堂のパイプオルガンを修復したことで有名な辻宏氏が手がけたもので、その音色はスペインのどこかの教会にいるかのような響きでした。

なお、このコンサートの開催にはスペイン大使館の後援を得、またスペイン文化省のグラシアン基金より2006年度の助成も受けました。

同記念コンサートの第二夜、第三夜の予定はつぎのとおりです。ぜひお出かけ下さい。

◆第二夜「ビウエーラ曲集」

日 時：2006年9月21日（木） 19：00開演（18：30開場）

出 演：真野めぐみ（ルネサンスハープ／歌）、上島剛之助（ビウエーラ）

◆第三夜「ザビエル時代のミサ曲」

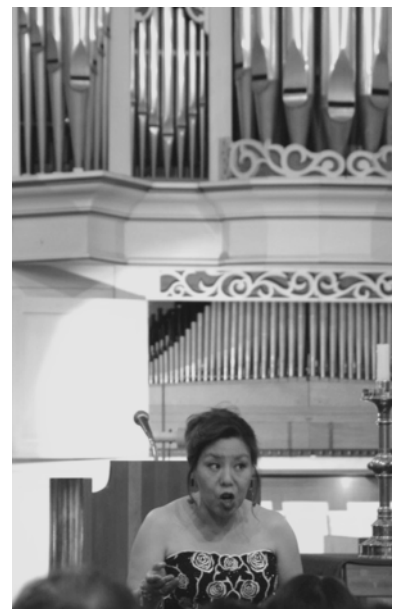
日 時：2007年1月25日（木） 19：00開演（18：30開場）

出 演：小池智子、小野田良子 他

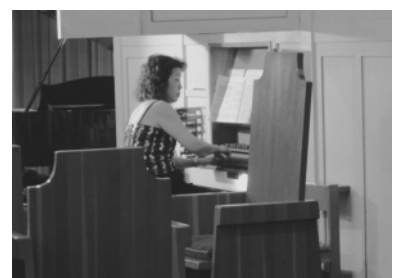
曲 目：アンチエータ：聖母のミサ曲 他

会 場：聖パウロ教会（東急東横線 祐天寺駅下車 徒歩5分）

入場料：会員1,000円 一般2,000円



▲熱唱する石井三栄子さん



▲パイプオルガンを奏でる小野田良子さん

協会ホーム・ページのリニューアルとお願い！

この度、横浜スペイン協会のホーム・ページを大幅にリニューアルしました。

リニューアルするに当たって、Web委員会を短期間に3回開催するほか、毎回の委員会で提案された課題は、メールでの意見交換を行ないながら検討を重ねました。

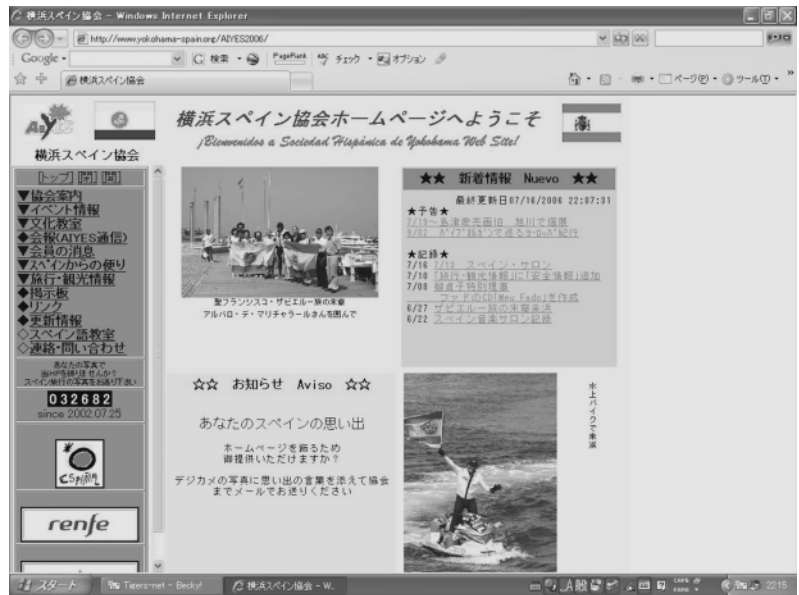
トップ・ページは、飯塚さん、村田さんのモデル案をもとに、メニュー項目の内容については、各委員が担当し検討を重ねた結果、横浜スペイン協会設立記念日の7月7日に完成することができました。

主な改正点は、トップ・ページで、更新した箇所を明かにするために、話題性のある写真を適宜掲載するとともに、文による「お知らせ」、「新着情報」欄を設けたことです。

また、メニュー項目及び内容を見直すとともに、メニュー項目を全てのページに掲げ、リンクするようにしました。

ホーム・ページが常に更新され、魅力のあるものにするためには、皆様からのスペインに関する写真やコメントの提供が欠かせません。多くの皆さんから写真やコメントをお寄せいただきたく、お願いいたします。ホーム・ページURLは、<http://www.yokohama-spain.org/> お問合せは、sakura@yokohama-spain.org

(Web委員会 武信孝雄)



▲明るく見やすくなった協会のホーム・ページ

会員投稿

スペインの印象

山崎 宗城

2005年2月12日から22日まで私はエミリオ・オルモス氏のピソで過ごしました。当時、エミリオ氏は、当協会のスペイン語クラスの先生で、私はそのクラスの生徒の一人でしたので、文中では親しみを込めてエミリオと呼びさせていただきます。滞在中Segovia, Avila, El Escorial, Toledo, Aranjuez, Chinchón, Cuencaなど案内してもらったり、二人でバールを巡ったりしましたが、ここで記録しておきたいことは最も印象に残った二つの事柄です。

まずCuelgamurosの松林の山の岩上に聳えるSanta Cruz del Valle de Los Caídosを二人で訪ねた時の話です。ここを訪ねた当日は、小雪の舞うすごく寒い日でした。転倒しないように気を付けながらクリプタ（地下納骨堂）まで進んでゆきました。一つの岩山そのものが大聖堂であり、そのクーポラの真上には150メートルの高さの十字架が建っています。

エミリオが生まれたのは、まさにスペインの市民戦争（1936～39）の時代でした。彼の父親はフランコ將軍蜂起前のマヌエル・アサーニャ大統領による、共和国政府時代に引き起こされた政府に反対する人々への残虐行為のことをよく話していたそうです。フランコ側の蜂起の背景には、そのような民衆の感情もあったわけです。やがてこの市民戦争に勝利したフランコ側が、將軍の亡くなる1975年までスペインを支配し、その独裁制の下で今度はフランコに反対する人々が投獄や口を封じられたわけですから、時代を評価する事の難しさを感じられます。

エミリオの話によるとこの巨大な岩山のバシリカの建設は1941年に始まり1959年に完成したのですが、その労働力となったのは、市民戦争で捕虜となった共和派の兵士や人々であったそうです。その数はどのくらいであったのかわかりません。厳しい自然環境と捕虜生活、過酷な労働でどれほどの人が亡くなったのか、また逃亡を図りフランコ軍の兵士によって射殺された人がどれほどいたのか、全てはフランコ政権の時代に

は知るすべはなかったのです。後になって生存者の証言等により事実が明らかになってきたようです。

フランコ元首の生存中には毎年4月3日の戦勝記念日と7月18日の開戦記念日には盛大な式典がここで執り行われてきたのですが、1975年11月20日にフランコ元首が死亡し、スペインが若き国王ドン・ファン・カルロス一世の即位と共に立憲君主制の時代となり、このクリプタの存在も問題となったのですが、良し悪しは別として歴史の証言としてのクリプタと十字架は残され今日に至っております。現在、政府としての行事が行われることもなく、積極的なツーリズム活動もなく、建築学的にはすばらしい壮大なクリプタが静かな松山の中に存在しています。

さてもう一つの事柄、それはアビラの町のサント・トマス修道院のことです。巨大な城壁に囲まれたアビラの町に二人で入ったのは、すでに陽が西に傾きだした夕方でした。エミリオと私は静かで人の姿も見えないサント・トマス修道院に入っていました。ここはエミリオが12歳から18歳までの間に過ごした5箇所の神学校・修道院の最後の2年間を過ごした所です。彼は暗い回廊を、記憶を確かめるように歩いて2階のシジェリア（聖歌隊席）の部屋に重い木の扉を押して入りました。当時はフランコの時代でカトリックの神学校にはいることは将来性のあることであり、父親はエミリオを彼の兄や姉同様神学校に入れたそうです。そこには彼と同年代の少年達が大勢厳しい規律の中で寄宿生活をしていました。毎日お祈りや聖歌をそこで歌い、時として悪さをしたときには床に腹這いにさせられ、叱責を受けたりもしたそうです。私には当時の紅顔の少年達の姿が想像されました。18歳になったエミリオ少年は、自分で自分の将来を決めることが出来るこのとき、修道院を出て二度と聖職者の道には戻りませんでした。

ちょうど6時の鐘がなり、ミサの時間を告げていましたが、眼下の祭壇の前の席には日曜日の夕方のミサにもかかわらず僅かに年輩の人達の姿しか見えず、聖歌隊席にかつての少年達の姿もありませんでした。私たちはそこを出てアビラの城壁が照明を受けて美しく遠望できる丘に登りました。空にはうつつらと沢山の星があり、一つだけ大きく輝く星がありました。

会員投稿

アマポーラ教室の音楽の集いに寄せて

太田 邦雄

気象庁の遅い梅雨明け宣言の翌日、7月31日（月）にスペイン語教室アマポーラ教室の有志の呼びかけで「ラテン音楽を楽しむ」を企画、クラスメンバーはじめ、協会の事務局のご助力を得て他のクラスの皆様の参加も頂き、大倉山記念館で開催することができました。

プログラムスタートは、懐かしのラテンポピュラーから、ソリスト釜さん（クラス名ゴメス）の心こもるピアノ弾き語り、切ない恋の曲、胸ときめきのラブソングなど5曲、次いで日本のオペラ曲から「手古奈」、ビゼー作曲「真珠とり」からの選曲で、思い馳せる忘れ得ぬ人への切々の思いのアリア。聴衆からのブラボーの声、盛んな拍手のなか、カンツォーネから「勿忘草」、「彼女に告げてよ」の2曲を朗々と、終曲は片岡ルリ子さんのピアノ伴奏で、「ロンダの夜」を歌い上げました。中間のティータイムには、釜さん長年の自家製果実酒を試飲、舌と喉を潤し、秘伝の果実酢、果実味噌の製法の蘊蓄を拝聴。

最後に参加者全員、釜さんの指揮で「アマポーラ」ほか2曲をスペイン語で歌う指導を受け、アンコールに応えて「カタリ」を皆さんに語り掛け、お開きとなりました。釜さん、片岡さん、参加の皆さん有難うございました。¡Hasta la próxima vez!



▲熱演する釜さんと片岡さん

* スペイン語教室の名物講師のジュアン先生はスペインに帰国されました。これは生徒さんの思い出記です。

ジュアン先生との6年間

ヒラソル教室 赤堀綾子

6月21日、ジュアン先生最期の授業、“Platero y Yo”の“Alegría”。

「私はいつも立って授業をしてきました。今日は皆さんが先生です。どうぞ前に来てください」。私たち生

徒が、先生に指示します。「ジュアン、読んでください」。一本調子の速い読み。「だめ、だめ。もっと気持ちを込めてゆっくりと」。また読む。「句読点に気をつけてもう一度」。

席に戻って、私たちが朗読する番。全員に当たった。なんて穏やかだろう。読み直しもあったけれど、いつもの厳しさは、どこにいったのだろう。

ほんとうに厳しい先生でした。先生の希望通り一度で上手に読むことは至難の業で、何度も読み直しを命じられたり、他の人に回されてしまったりしました。また、私語、よそ見などしようものならさっと指名されてしまいました。弾丸のように飛んでくるスペイン語を必死で聞き取る1時間半。居眠りどころではありません。体調の悪い時などちょっと見逃してほしいなと思うこともありました。

でも、それがジュアン先生の魅力でもありました。家にいて、いすに座ればずっと眠ってしまうような虚弱体質（医師の診断）の私にとって、極度の集中力を要するこの1時間半は、頭も冴え、気力もみなぎる魔法の時間でした。また、先生の授業にける情熱は並大抵ではなく、膨大な資料を準備し、小説や詩の解釈も、深く深く掘り下げていきました。

それが、時に重荷に感じられもしましたが、真摯さにいつも頭が下がる思いでした。そんな先生に対して、ろくに勉強もせず、万年遅刻をする不良生徒であり続けたことを、心から申し訳なく思います。

思い返せば、ずいぶんいろいろのことを学びました。“Congreso en Granada”をはじめとする小説が数冊、“Platero”他、詩がいくつか。¡Viva España!を最後とするたくさんの歌、“El Alfabeto Español-Composición Escrita”（AからZまででたために選んだ言葉を全部使って作文するもの）、“Conferencia”と質疑応答、映画鑑賞、それに不評のguiónとビデオ撮りはもちろん、“Español 2000”もやりました。

常に、独創性を要求され、「で、あなたの考えは?」「あなたの言葉では?」と問われました。あいまいさもよしとせず、“Si o no”と詰め寄られました。それは必ずしもやさしいことではありませんでしたが、いい勉強になりました。

すべての経験がいい思い出です。嬉しいことに、スペインに住まわれても、別の形で、ご指導くださる計画もあると伺いました。それを楽しみにいたしております。ジュアン先生、どうぞお元気で。



▲熱血ジュアン先生

* 協会はスペイン語を楽しく学ぶ場を提供しています。そのクラスを紹介します。

スペイン語教室紹介 カメリア (Camelia) 教室

今年から新任のベアトリス先生に代わり、基本フレーズを使ったスペイン語会話を通して初級の文法、語法を学ぶワイワイガヤガヤの楽しいクラスです。

先生はスペインのバジャドリード出身で生粋のスペイン語を話すチャーミングな方で日本の滞在も長く、私たち生徒の一人ひとりの性格を掴み、時折ゲームを交えたりして教えていただいています。また、作文の添削を通して語法や文法、スペルの誤りまでも丁寧に指導いただいています。

私たち生徒は現在12名でスペイン語のレベルはそれぞれですがスペイン語を話したい、スペインへ行きたい、スペイン人のことをもっと知りたい……想いは皆同じで、熱の入った1時間半の授業です。

「もう一度スペイン語を勉強しようかな」、「もう一度会話を習ってみたいナー」と思う方はぜひ教室を覗いて下さい。



▲カメリア教室の授業は楽しい

－賛助会員各社の会員サービス内容－

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住 所	電話番号	会員サービス内容
レストランオリーブ	横浜市中区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
(有)フレア	横浜市神奈川区西神奈川1-6-1 サクラビル701	045-321-5638	押し花材料代10%割引
日西商事（うさぎのいる島）	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料

//////////////////// 新入会員紹介 //////////////////////

犀川 英次 (Eiji Saikawa)

横浜市緑区 2006年4月30日入会

土曜日のスペイン語教室に、会員の妻と参加しています。スペインは駐在の経験があり「第二のふるさと」としての思い入れがあります。

理屈抜きにスペインが好きです。よろしくお願いします。

中西 輝夫 (Teruo Nakanishi)

藤沢市 2006年8月1日入会

大学でスペイン語を学んだこと。1974年より4年間ほどスペインに駐在したこともあって、スペイン大好き人間です。

特にスペイン音楽（サルスエラ）に興味を持っています。

***** INFORMACIÓN *****

●新駐スペイン日本大使紹介

日本政府は8月1日の閣議で、新しい駐スペイン日本大使に中東アフリカ局長の吉川元偉（よしかわもとひで）氏を決め、同日付けで発令しました。

新大使の吉川氏は、国際基督教大学を卒業、1974年外務省に入りその後国連政府代表部大使、経済協力局審議官などを経て、2004年7月から中東アフリカ局長をしていました。

●柳 貞子特別理事、ファドのCDを制作・発売

日本のファドの開祖であり、スペイン歌曲の大家である柳貞子さん（当協会特別理事）は、この度「Meu Fado」（私のファド）と題したCDをリリースしました。

収録されている曲は、「懐かしのリスボン」「さだめ」「暗いはしけ」「神は私に声をくれた」などをはじめとした12曲です。

ポルトガルの民俗歌謡のファドは、1820年代に生まれ、19世紀中ごろにリスボンのマリア・スヴェーラの歌によって現在の地位を得たものですが、イタリアのカンツォーネ、フランスのシャンソンなどのように世界的に有名です。主にCasa do Fadoと呼ばれるレストランなどで歌われ



る酒場の音楽で、ポルトガル・ギターとクラシック・ギターでの伴奏で演奏されます。ファドは、大航海時代に帰らぬ船乗りたちを待つ女たちの歌ともいわれ、ポルトガルの国民的歌手として知られているアマリア・ロドリゲスが、フランス映画「過去のある愛情」の中で歌った「暗いはしけ」のヒットでさらに有名になりました。

柳さんがCD「Meu Fado」(私のファド)のリーフレットで「ファドのわかる歳になってきた。それはわが人生のドラマ」と記しているのは、このような意味を込めているのでしょう。

価格：3,000円(税込)

☎申込・問合せ先：TEL&FAX 042-734-5569

●協会後援コンサートのお知らせ

下山静香 スペイン&ラテン室内楽シリーズ

HISPANIC WAVE 第1回 公演

日時：2006年10月11日(水) 19時開演 18時30分開場

会場：津田ホール

JR中央線「千駄ヶ谷」下車 徒歩1分

都営地下鉄大江戸線「国立競技場」A4番出口 徒歩1分

料金：一般 4,500円 学生 2,500円(全席自由)

下山静香後援会会員 3,500円(同時入会可)

チケット取り扱い：イマジン・チケットセンター 03-3235-3777

東京文化会館チケットサービス 03-5815-5452

Office ZARABANDA info-shizuka@r3.dion.ne.jp

(下山静香後援会会員チケットのみ)

後援：スペイン大使館 アルゼンチン大使館 横浜スペイン協会
ガウディ協会日本支部

*横浜スペイン協会会員は一般チケット4,500円のところ、500円引の4,000円になります。

☎問合せ先：コンサートイマジン 03-3235-3777

***** 事務局からのお知らせ *****

◆事務局の住所が変更になりました

役員改選に伴い、事務局長が山崎宗城さんに代り、事務局の住所も下記に変更になりました。

鎌倉市

横浜スペイン協会 事務局

■会員訃報■ 辻 和也 さん

昨年春より体調をくずされ、2005年11月8日にご逝去されました。此処に慎んで、ご冥福をお祈りいたします。

<編集後記> 新しい年度が始まりました。今年は役員改選があり前号でお知らせした候補の方々が新役員として承認されました。これから来る20周年?に向かっの活躍を期待いたします。

さて本文の通り協会ホーム・ページもリニューアルされました。この中に会報のページがあり創刊号からのAIYES通信が全て閲覧できるようになりました。創刊から間もない頃は情報量も少なく会報としては物足りないものですが、現在ほど活動が活発ではなかったことを考えるとそれでも貴重なコミュニケーションツールでした。ぜひ一度ご覧いただき、これからの協会の活動の資料として参考にしていただきたく思います。ご感想もお待ちしております。(鈴木生雄)

編集委員 渡邊昭夫 久保田誠志 澤田真人 鈴木生雄 高柳治子 武信孝雄 寺原瑛子 宮崎紗伎 山崎宗城 山下幸子 飯塚 劭

* 投稿寄稿宛先

横浜市戸塚区

次号の原稿締切は

11月10日(金)です。

投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。